

(研究報告) 抄録用紙

演題名 (全角 80 字以内)	救急医療と在宅医療の連携における地域課題の抽出
演者名	友松 郁子 1)、川越 正平 1)、山口 朱見 1)、山崎 浩二 1)、佐々木 友明 1)
所属	1) あおぞら診療所

研究方法 (右から番号を選び NO. 欄に番号をご記 入ください)	1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究 4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究 8. 質的研究 9. その他研究	NO.
		8

目的

本研究は、地域の多職種で救急医療と在宅医療の連携に関する課題を明らかにすることを目的とする。

方法

患者搬送側の視点から課題を抽出する場として、150 名規模で医療介護職が会する多職種合同カンファレンス (2013 年 10 月) を救急医療をテーマとして開催し、グループワークののちに記述式アンケートを実施した。次に、救急患者受入れ側の視点から課題を抽出する場として、市内の医療機関や消防局など多機関の代表者が会する意見交換会 (2014 年 3 月) を開催し、討議内容について議事録をまとめた。アンケート結果と議事録の内容を質的データ管理・分析ソフト MAXQDA を用いてデータをコーディングし、Thematically analysis の枠組みを用いて分析した。

結果

多職種合同カンファレンスの参加者は 153 名、その内、アンケート回答者は 126 名 (回収率 69.9%) であった。救急医療の課題に関する記述は 145 項目あり、その内容をコーディングした結果、12 項目に分類された。共通のキーワードが含まれる項目ごとにまとめた結果、①～③が課題として抽出された。

多機関の代表者が会した意見交換会では、出席者全員の発言を議事録として記録した。その内容を同様の方法で分析した結果、④～⑥が更なる課題として抽出された。

- ① 病歴や背景、これまでの身体状況などについての情報共有
- ② 救急搬送すべき状態かどうかについての現場の判断
- ③ どこまでの医療を希望するのかについてのリビングウィルに関わる意思決定
- ④ 急病が生じる前の予防策や在宅医療としてできる対応
- ⑤ 在宅医療や後方支援機能を担う病院が果たすべき役割といった後方支援機能
- ⑥ 精神疾患患者や死亡確認のための搬送などの重要各論

考察

救急搬送を要請する側とその受入れ側という双方の視点から議論した内容について、質的手法で分析し、救急医療と在宅医療に関わる課題を 6 つ抽出することができた。また、この一連のプロセスにおいて、各課題が一職種や一組織、特定の地域だけでは解決できない特性を備えたものであることが明らかとなった。